

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI川崎戸手教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	現在配置されている職員の数にのった定員で運営を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	角に対してクッション材を貼り、バリアフリー化への配慮を適切に行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	空気の入替え、毎日の清掃・道具の手入れを行い、清潔さを保っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	半年に一度定例会議、月に職員の面談を行っている。それぞれの目標や仕事内容を吟味し、全員で共通認識をはかっている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	良い意見悪い意見もどちらも共有し、職員の意識向上に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	評価は毎年ホームページで記載。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		自治体により第三者評価の導入具合が異なるため、統一したの評価制度の導入を検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	各自で研修会などに参加することで療育の質などの向上に努めている。	
適切な	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	児発管と指導員が日々積極的に児童について話し合いを行うとともに、保護者のニーズ等を確認し、作成を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		全職員が把握ができていない現状のため、今後全職員が確認できる機会を導入していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	児発管と保護者の話し合いを行い、適切に選択し具体的な支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	毎サービス提供時間前後に計画や目標を確認し支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	全員で運動内容を決め、毎月確認する作業をやっている	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI川崎戸手教室

支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2か月に1度運動プログラムの見直しを全職員で行っている。リードを毎週同じ担当にならないなどの調整を行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	集団活動への参加が難しい児童に関しては、一定期間個別クラスで対応し、その後成長に合わせ集団クラスへの移動を推奨している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、支援方法や役割分担の確認を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日記録を取る時間を確保し、振り返り、次回の支援に繋げている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	半年に一度保護者と面談を行い、その情報をもとに児発管と指導員がミーティングを行い、見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		特に検討していないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		現在は学校との直接的な共有は一部の児童のみでしか行っていないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		来年度に向け、電話や訪問等でのあいさつ回りをを行い、連携を強めていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		当事業所には医療スタッフが存在しないこと、医療ケアの必要なお子様の通所がないため連携していないが、今後必要に応じて連携体制をとっていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、今後、必要に応じ検討していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		現在は学校との直接的な共有は一部の児童のみでしか行っていないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	近隣で公開しているセミナーなどに今後参加を検討している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		特に検討していないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		必要に応じて参加していく。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI川崎戸手教室

	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	保護者とのフィードバックの時間を必ず設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		現在は行っていないが、次年度からはより家庭支援に力を入れていく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	児発管が支援計画を作成・説明を行い同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	希望者には定期相談会の場を設け、助言や支援の機会を作っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	父母の会はないが、当事業所は保護者の待機、見学スペースを設けており、そこで保護者同士で交流などを行っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	申し入れがあった場合は、すぐに対応している。その場での判断が困難な場合、全職員で会議を行って認識を一致し、検討・回答している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		イベントの告知などは行っているが、今後SNSなどを活用した会報の発行などを検討
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	氏名などの個人情報の記載された資料は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしている。フィードバックの際の個人情報については、保護者の要望に応じて距離をとる等の取り組みを行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	絵カードや運動道具を使用し視覚的な情報でアプローチを行うなどの配慮している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
	非	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	マニュアル類ができており、ロッカー背面に張り出し保護者へ周知している。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年4回、地震や火事、水害、不審者を想定し、児童を交えて実施。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約面談時のフェイスシートと面談により確認している。変更があった場合は随時情報提供していただいている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI川崎戸手教室

非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	フェースシートと面談により、食物アレルギーについては詳しく聴取し、一覧表を作成。イベント時に提供するお菓子は、アレルギーのある児童のみ別途用意したお菓子を提供。提供時は必ず全保護者への共有を行っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	担当者を決め、日々の振り返りの中で感じた危険な場面などを記録、共有を行っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止の研修を適宜行い、実際の状況などを想定したロープレなどを行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。 今現在、当事業所において拘束等は行われていない。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 川崎戸手教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	32	0	1	0	教室でボール遊びができ、とても広く、ストレスも解消している。	今後も引き続き、子どもの一人一人にあわせて楽しみながら力をつけていく療育を提供していきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	32	0	1	0	・先生の異動や退職が多すぎる。しかし、新しく入った先生も子どもをちゃんと見てくれてよかった。子どもと先生の数のバランスが良い。 ・どのような資格や経験があるのか説明がなく不明。	・指導員が安定していなくて申し訳ありません。少しでも安心していただけるように、定期的に研修の機会を設定し、指導員全体のスキル向上・療育の向上を目指してまいります。 ・職員個々の経験や専門スキルを掲示し不透明さをなくしてまいります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	32	0	1	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	32	0	1	0	・清潔で明るい環境で身体を動かすことができている。 ・ハンドソープの容器が汚れていたのが気になった。 ・子どもが手洗い・うがいの練習ができている。	今後は細かいところも定期的に清掃を行い、事業所全体を清潔に保つよう精進いたします。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	32	0	1	0		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	32	0	1	0	地域支援などがよくわからない。ガイドラインの説明があったか不明。	定期的に行われている面談等でもお困りごとに合わせて地域支援の案内を行ったり、掲示等を行い、活用しやすいようにしていきます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	32	0	1	0	最近見学できていないので不明。	定期的に見学週を設けたり、フィードバックで課題ごとに様子を具体的に伝えるようにいたします。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	32	0	1	0	・月間の目標が設定されていて活動しやすい反面、固定化しているように思える。 ・園での活動をふまえて柔軟に対応している。 ・いろいろなプログラムがあり、頭を使って運動できている。 ・毎月変わる活動、毎回違う内容で楽しめている。	職員全体で療育内容を話し合い、決定していくとともに、支援計画に合わせたものや、楽しめるものを提供し、引き続き様々な視点からアプローチができるようにしていきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	32	0	1	0		
10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	32	0	0	1	継続利用のため忘れてしまった。	契約時や年度初め等に説明や確認を行っていますが、ご不明点があればいつでもお答えできます。ぜひご質問ください。	
11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	32	0	1	0			

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 川崎戸手教室

保護者への説明等	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	32	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> •あれば参加したい。 •フィードバックでアドバイスをもらっている。 	家庭支援プログラムを行う環境や内容を検討・準備し、面談やフィードバック以外でもお子様に合わせた支援やかかわり方を学んだり、不安を解消しける機会を設けてまいります。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	32	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> •いつも丁寧な説明をしている。 •フィードバックでアドバイスをもらっている。 •前向きに課題を取り組んでくれ、保護者も元気をもらえる。 •子どもの状態や活動の話が聞けて、本人と話したり褒めたりできている。 	引き続き、満足度の高い運営ができるよう努めてまいります。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	32	0	1	0		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	32	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> •機会があれば参加したい。 •保護者同士の交流はほほない。 	要望をもとに保護者の方に向けた支援方法検討していきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	32	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> •他施設や園の様子などにも親身に耳を傾けている。 •短い時間でも話ができれば聞いてもらえる。 •ラインが使えるので便利。 	様々な連絡ツールを使ったり、迅速に面談等を設定し、保護者の方にも寄り添っていただけるような対応を引き続き心がけてまいります。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	32	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> •こちらからの相談や報告にもよく耳を傾けている。 •ラインが使えるので便利 	
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	32	0	1	0	されていると思う。	自己評価は年に一度ホームページで公表しております。活動概要や行事予定、その他情報については口頭ではもちろん、書面やLINEアプリなど活用してお伝えしております。ご不安なことがあれば、いつでもご質問ください。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	32	0	1	0		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	32	0	1	0	行った日程等を掲示するとわかりやすい。	文書の掲示を行うとともに事前・事後に口頭でも伝えていきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	32	0	1	0		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	32	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> •毎週終わるごとに次回を楽しみにしている。 •初めは不安そうだが行けば楽しんでいる。 •前回うまいいった活動を思い出し、前向きに通所している。 	今後もお子様が楽しく通所できるようなプログラムの提供・運営に努めてまいります。
	23	事業所の支援に満足しているか	32	0	1	0	本人に合わせて対応しているので満足。	今後も保護者様とお子様ともに満足していただけるような教室の運営に努めてまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 川崎戸手教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	安全面、その日の参加人数を踏まえながら適切な療育を提供していく。	
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。当事業所は指導員4名がすべて常勤のため、体制は整っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	定期的に会議を開き、安全への配慮を欠かさないようにしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	それぞれの目標や仕事内容を吟味し全員で共通認識をはかっている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	全体共有を図り、改善単について話し合っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		定期的に第三者の方に見てもらう機会を設け、客観的な意見を聞き、改善に努めていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	自社研修と個々で他機関の研修を受講している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	児発管との職員間で話し合い、よりよい支援計画を作成に努める。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	全員で運動内容を決め、毎月確認する作業をしているミーティングなどで共有を行っている。お子様のその日の様子次第で臨機応変に対応ができるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2か月に1度運動内容の見直しを全職員で行っている。活動に関してはお子様の課題に合わせて、飽きないように創意工夫を行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	運動療育を提供するなかで安全面の配慮はもちろんのこと。時期や、時間帯でのお子様の変化にも対応しながら支援を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	事前にミーティングを行うことで実施できることが増えた。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	全体共有を図り、改善単について話し合っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	必ず振り返りの時間を設け、次回支援につながる様にしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	個々で記録に残し、次回以降の支援につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	児発管としっかりと話し合い、見直しを行っている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 川崎戸手教室

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	総則通りに行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	児童相談支援事業所と電話でのやりとりを行っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	保護者の方に協力していただき、送迎時の様子や園での様子を把握できているので、職員間でも状況に合わせた対応が行えるように日頃から役割を明確にしている。役割を決めているため、トラブルが起こった際の対応は常に迅速に行えるようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		必要に応じて連携を図っていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	より良い療育を行うために、園での様子、家庭での様子保護者の方からお聞きし、共通認識が深まるよう努めていく。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		障害福祉サービス事業所等へ移行するほど長い期間でご利用される方いないため、情報提供を行ったことがない。長期的に通っていただけるような環境を整えていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		必要に応じて確認を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		必要に応じて機会を設けていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		外部とのつながりが薄いため今後は必要に応じて参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回支援後にフィードバックを行い、学校での様子をうかがいながら状況や課題の共通認識を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		職員1人1人が保護者に対する支援を行っていただけるように研修等で知識を身につけていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規定の内容や利用者負担額については主に契約時説明を行う。 支援の内容は様々な状況で詳しく説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	職員全体で共有をし、改善を図れるよう尽力している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		保護者の方に向けた支援を検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	不透明さをなくしていくために文書やLINEアプリ、Instagramアプリを用いて情報を提供していく。	
	35	個人情報に十分注意している	気を付けている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 川崎戸手教室

	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人ひとりに合わせた対応を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている		必要に応じて機会を設けていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	定期的に行っている	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	定期的に行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	定期的に行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	身体拘束同意書を用いて説明を行い、同意を承諾していただいている。やむを得ない愛に行うことを事前に理解をいただいている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	情報共有を行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	迅速に作成し、共有している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 川崎戸手教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	37	0	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	30	5	1	2		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	27	7	1	3		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	35	3	0	0		
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	35	3	0	0	様子はフィードバックされるが、見学数が減ったため内容全貌まではわからない。	2か月毎に運動プログラムを立案し、計画的に実施しています。コロナ禍ということもあり、見学の機会が減ってしまったので、今後できるだけ内容も含めお伝えしていきます。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	4	18	18	他のクラブとは交流はなくてもよい。他の教室とはあってもよい。	現在は限られた営業時間の中で実施するのは難しく実施しておりませんので、今後保護者様のご意見も鑑みて状況に応じて検討してまいります。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	33	4	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	34	3	1	0		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	34	4	0	0		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	9	15	10	同じ時間の利用者と会話の機会があるため特に必要ない。	父母の会は現状ありませんが、当事業所は保護者の待機、隔週で見学スペースを設けており、そこで保護者同士で交流などをしていただいています。今後保護者様のご意見も鑑みて状況に応じて検討してまいります。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	3	0	20		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	34	4	0	0		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	17	7	3	11	お知らせやイベントの案内などをラインやインスタで配信してほしい。	入口前の掲示板でイベントのお知らせを行っておりますが、今後はLINEアプリ含めお知らせ方法を検討してまいります。また、Instagramアプリの活用方法も協議してまいります。
14 個人情報に十分注意しているか	30	3	0	5			
非常時	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	27	4	2	5		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 川崎戸手教室

同等の 対応	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	24	2	2	10	災害時の備えについての説明はされていない。	左記マニュアル類を保護者様の目の届く位置に置き、口頭で周知してはありますが、充分ではない為再度周知徹底してまいります。
	満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	36	2	0	0	毎回とても楽しみにしている。新しい活動が多くワクワクしている。シールがたまってくると楽しみが強くなっている。
18		事業所の支援に満足しているか	33	5	0	0	個人の能力を個別に教えてもらえている。	今後も引き続き保護者様とお子様 に満足していただけるような教室づくり・運営に努めてまいります。

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。